

参加報告 「富士宮市学校給食を考える会」総会に参加して

文責：小櫛 和子

平成 22 年 11 月 21 日に、「富士宮市学校給食を考える会」の平成 22 年度総会に出席しました。

小池会長の挨拶の中で、「ふじ食農体験交流協議会」の「田んぼの学校」の取り組み報告がありました。「除草剤を使わない田んぼは、雑草を取りきれず、しまいにはヒエと共存し、10 俵とれる田んぼで、6 俵しか収穫できなかった。こしひかり米だが愛称『ひえひかり』と名付けた。今年度は日大や富士常葉大にかかわってもらったので、今後 地域と大学とで協働して地域おこしをする足がかりができた。」

また、削蹄師という仕事柄、今年の口蹄疫問題についてもお話されました。

「酪農・畜産の盛んな朝霧高原では、今年の 5～8 月にかけて対応がとても大変だった。目に見えないウイルスが相手なので、宮崎で被害にあい失業した同業者を受け入れることもできない現状があった。静岡空港ができ、今後国際的な防疫システムの議論が必要になってくる。富士宮市の主産業である畜産を地域で支えられるように考えていきたい。」

総会の議事は、すべて承認されました。

次年度も、小池代表を中心に活動を続けます。

富士宮市の市議会議員 2 名が会員登録して、計 3 名の市議が会員になりました。

富士宮市では、学校給食センターの老朽化が進む中で、来年度中には新しい施設への検討がなされます。限られた予算の中で、何を大切にしていくかを市民が真剣に考えなければなりません。

来年 4 月の統一地方選では、富士宮市は市長選があります。市民の意志を伝えるとてもよいチャンスです。地場産品をできるだけ使い、地域に根差した「食育」が実現できる学校給食を目指した積極的な活動をしていくことを、総会で確認しました。「富士市学校給食を考える会」としても、積極的に応援していきたいと思います。

その後、なごみ農園の宮田雅和さん（富士山麓有機農業推進会会長）を囲んでの座談会がありました。宮田さんは、10 年ほど IT 関係の仕事をしていましたが、自然と触れ合うことのできる仕事として農業を選んだそうです。有機農家が連携することで付加価値のある加工品の開発や、竹を堆肥化する事業、農業を目指す若者支援事業などに取り組んでいます。

「有機農業は、作っている人間の体に負担が少なく環境負荷も少ない。農業を仕事にしなくても、だれもがもっと自然に触れ合う機会が増えれば、きっとみんな元気になって医療費も少なくなると思う」と、熱く語っていました。

「市場経済から農業を守るために、学校給食に地場産品の利用拡大することは、富士宮市全体の財政規模や税収先を考えれば、市民の多くが望めば可能である。」との発言もありました。